



- 一、しっかり学ぶ 錦の子
- 一、よりよく生かす 錦の子
- 一、なかよく生きる 錦の子
- 一、元気でがんばる 錦の子

全校朝会（表彰・夏休みを迎える会）

7月21日（金）、夏休みを迎える会で、児童に3つの事を話しました。読書を楽しむこと、うれしかったことを毎日メモすること、今年の合言葉『さしすせそ』を心がけて生活することについてです。児童指導主任から、規則正しく生活すること、交通事故に気をつけること、お金の貸し借りはしないことなど、夏休みの過ごし方について説明がありました。朝会で表彰された児童は右のとおりです。

名 称	賞区分	学年・組	氏 名
歯と口の健康週間作品コンクール	ポスター 二席	5-2	久木田 明琳
	ポスター 三席	5-1	熊谷 寛乃
宇都宮市水泳大会	自由形 第3位	5-1	茂谷 優花
	背泳ぎ 第5位	5-2	久木田 明琳
	リレー 第5位	5-1	茂谷 優花
		5-1	荒川 夏華
		5-2	高德 紗望
		5-2	福田 早絢
	自由形 第5位	6-2	若林 美麗
	自由形 第5位	6-1	松本 樹希哉
	背泳ぎ 第6位	6-1	石川 蒼



ふれあいウォークラリー

7月14日（金）2・3校時、児童会主催のふれあいウォークラリーを実施しました。縦割班（ニコニコ班）が、お互いの催し物を見て回り体験するウォークラリー活動です。月曜日の昼休み（みんなの時間）や水曜日のロング昼休みの時間を利用し、ニコニコ班ごとに児童が主体的に準備を進めてきました。どの班も志向を凝らした内容で、お互いに刺激し合っていました。今年重点課題の一つに、「他者と対話し協働する活動を通し、新たな考えを生み出す児童の育成」があります。今回のふれあいウォークラリーは、児童の自主的・主体的な活動により、自由な発想や豊かな創造力が十分に発揮された、大変有意義な活動であったと思います。

環境美化のための奉仕作業（PTA）



8月26日（土）PTA奉仕作業を実施しました。早朝から、PTA会長、PTA厚生委員の皆様をはじめ、多くの児童や保護者の皆様にご参加いただき、校舎内のトイレや水道の清掃、校庭の除草作業にご協力をいただきました。トイレや水道では、日頃なかなか落とせなかったがんこな汚れがきれいになり、校庭は雑草が減りととてもすっきりしました。夏休み明け気持ちよく学校生活のスタートをきることができ、教職員一同大変喜んでおります。ご協力くださいました皆様に感謝申し上げます。大変お世話になりました。

◇最新の情報は、本校のホームページでご確認ください◇



全校朝会（夏休み明け）

8月30日（水）、39日間の長い夏休みを終え、児童が元気に登校しました。連日の猛暑や不安定な天候が続いた夏休みでしたが、大きな事故等もなく、真っ黒に日焼けし、久しぶりに会った友達と笑顔で会話する児童の姿が見られました。朝会では、「感謝の気持ちを忘れずに、友達との関係を大切にしながら、1学期のしめくくりとして、毎日の授業を大切に、基礎をしっかりと身につけていきましょう。」と児童に伝えました。



第2回いじめゼロ強調月間

9月は、「第2回いじめゼロ強調月間」です。本校では、「いじめは絶対に許さない」という共通認識の下、子供たちが明るく充実した学校生活を送れるよう努めてまいります。具体的な取組は以下の通りです。

- 1 「いじめゼロ強調月間スローガン」の掲示（スローガン：「いじめゼロ しない 負けない 許さない」）
- 2 いじめゼロリボンシールの着用（シールを胸章につけます。）
- 3 いじめにかかわる内容を含んだ道徳の授業の実施（各クラス、期間中に1回以上は実施します。）
- 4 第2回いじめアンケート調査の実施（実施期日：9月1日（金）～8日（金） 全校児童対象）
- 5 教職員による休み時間等の巡回（教室や廊下、特別教室、校庭等を巡回します。）
- 6 いじめゼロ呼びかけの実施（9月～10月に、児童会を中心としたいじめゼロ全校集会を実施します。）
- 7 地域・保護者への啓発（各学年だよりや学校ホームページ等で紹介します。）

『人を生かし自分を生かす』 鶯宿梅：大鏡

平安時代後期の歴史物語「大鏡（おおかがみ）」に記された故事の一つです。村上天皇の頃、平安京の清涼殿（せいりょうでん：帝（みかど）が生活していた場所）に紅梅（こうばい）があり、帝はとても大切にしていました。その紅梅が枯れてしまい、侍臣（じしん：帝に使える人）が代わりの紅梅を探していたところ、ある家の庭先で見事な紅梅を見つけました。侍臣は、その家の娘に事情を話し、その紅梅を清涼殿に植え替えました。帝はとても喜び、庭でじっくりと紅梅を眺めていました。よく見ると、一つの枝に一枚の短冊が結ばれていました。そこには、次のように書かれていました。

ちよく うぐいす
『勅なれば いともかしこし 鶯の』

やど と こた
宿はと問はば いかが答へん』



「思し召し（おぼしめし）でありますから、この紅梅は差し出しましたが、鶯が来て自分の宿はなくなってしまったのかと聞かれたら、私は何と答えたらよいのでしょうか。」というような意味の和歌でした。帝はすぐに紅梅を返し、その娘の奥ゆかしさと教養の深さに感じ入り、その娘に紅梅内侍（こうばいのないし）という名を贈ったとそうです。娘は、本当は譲りたくない紅梅を、帝の要望のため素直に差し出しました。しかし、本当の気持ちを和歌に託して伝えました。侍臣の立場も立ちました。帝は感銘を受け、紅梅を娘のところに戻しました。人を生かし自分を生かしました。教養のなせる業（わざ）です。この女性は、歌人 紀貫之（きのつらゆき）の娘 紀内侍（きのないし） と言われています。

教養は人に気品を授け、気品は自身の助けになります。私たちは、日常生活でいろいろなことを経験し学びます。時には失敗をすることもあります。しかし、無駄なことは何一つありません。それらの経験や失敗が、一人一人の学びとなり教養となります。そして、人を生かし自分を生かせるような気品に生まれ変わるのだと思います。